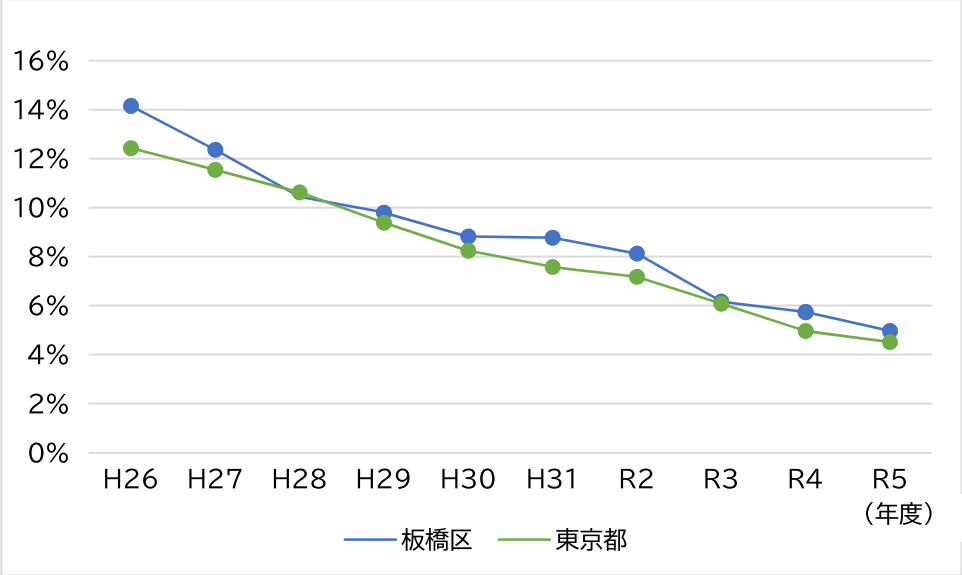
板橋区の歯・口の現状

乳幼児期

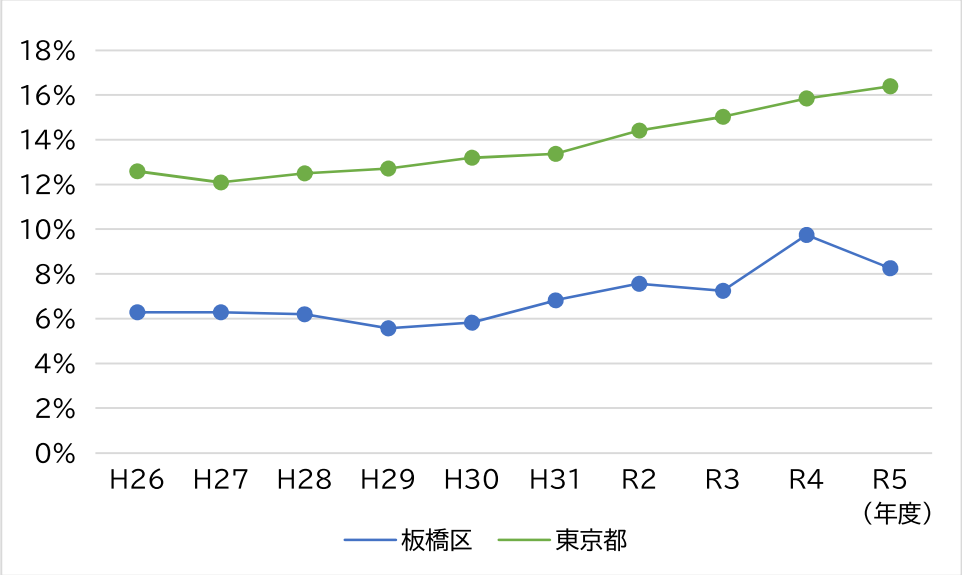
むし歯のある３歳の割合は、約 10 年間、東京都より高い傾向が続いています。



表：3歳児歯科健診でのむし歯有病率の推移の比較 （出典：東京の歯科保健）

過去 10 年間で、
３ 歳児におけるむし歯のある子どもの割合は減少していますが、
東京都の平均より高い水準で推移しています。

不正咬合のある３歳の割合は、過去 10 年間で増加しています。

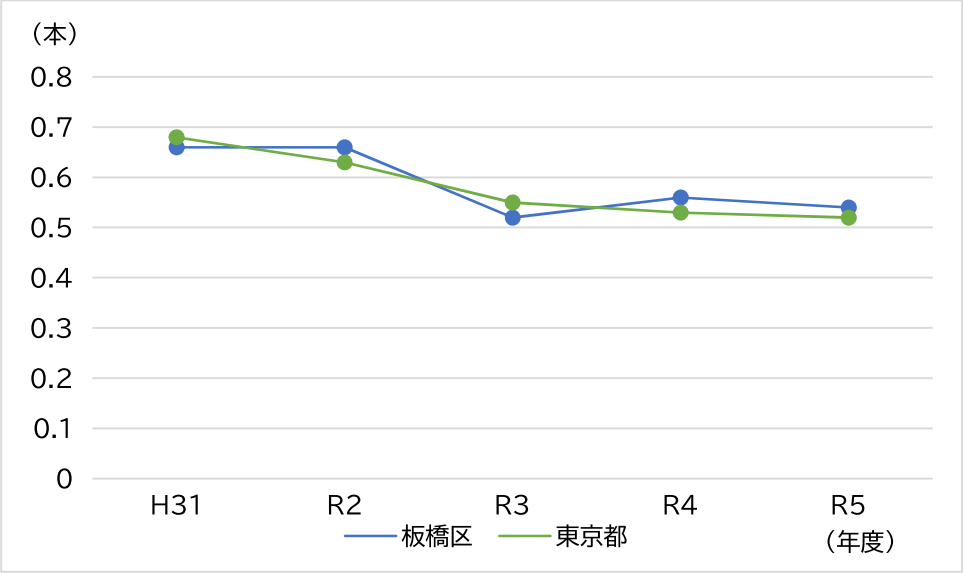


表：3歳児歯科健診における咬合異常の推移の比較 （出典：地域保健健康増進事業報告）

不正咬合のある3歳児の割合は、東京都より低い水準であるものの、
年々増加している傾向が見られます。

学齢期

12 歳で、永久歯のむし歯を経験した歯の本数は、一人あたり 0.54 本です。

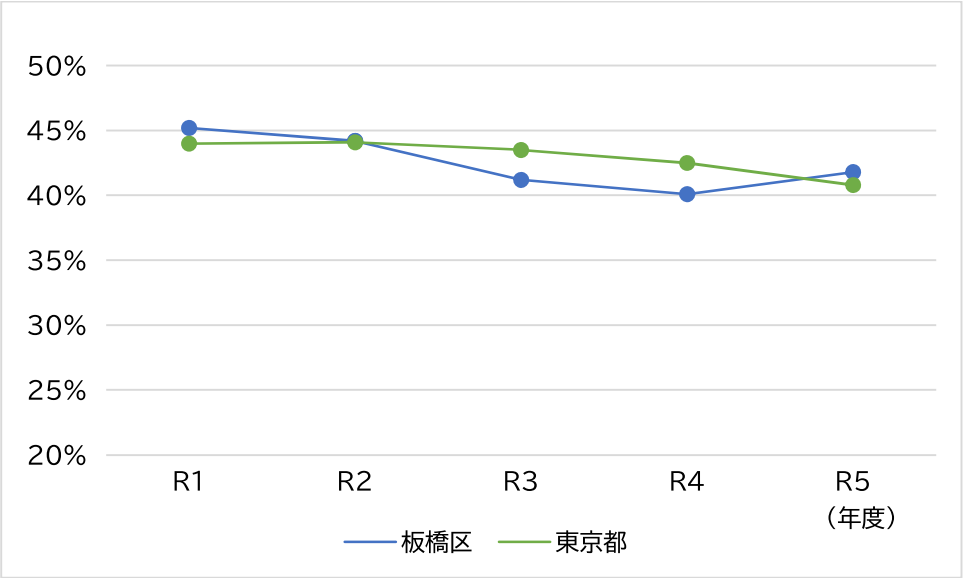


過去 5 年間で、12 歳（中学 1 年生）の永久歯の一人平均むし歯経験歯数は、ゆるやかに減少しています。

表：12 歳（中学 1 年生）の永久歯の一人平均むし歯経験歯数の推移の比較 （出典：東京の歯科保健）

成人期

40 代で、進行した歯周病を有する者の割合は、減少傾向にあります。

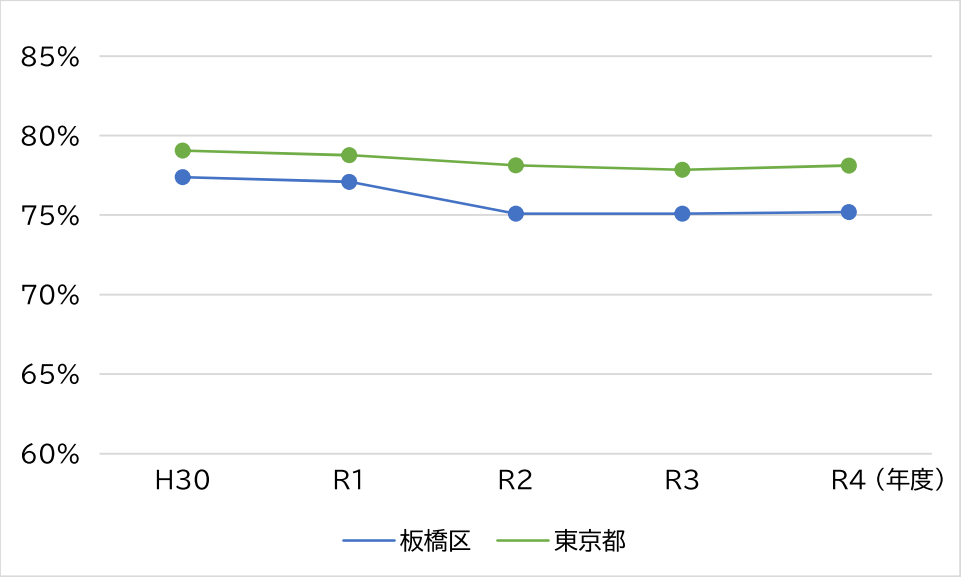


過去 5 年間で、40 代における進行した歯周病を有する者の割合は、減少傾向が続いています。

表：40 代における進行した歯周病を有する者の割合 （出典：東京の歯科保健）

高齢期

何でもかんで食べることができる人の割合は、過去 5 年間でほぼ横ばいです。



過去 5 年間で、
65―74歳における
何でもかんで食べることが
できる人の割合は、
東京都よりも低い水準が
続いていて、
過去 5 年間はほぼ横ばい
で推移しています。

表：65―74歳における何でもかんで食べることができる者の割合の推移
（出典：NDB オープンデータ）